

令和7年度取組状況

ものづくり工学科 一般科 (職)准教授 (氏名) 藤吉大介

取組状況	
教育	<p>1. 授業で扱ったテキスト本文を用い、6種類の活動を継続的に行なった。これらの音読と、TOEIC Bridge miniテストおよび定期試験の結果との間には、得点上昇との一定の関連が見られた。音読学習においては「学習時間」よりも「合格数」がスコア向上と関連する有効な指標となることが示唆された。</p> <p>2. 指導においては一貫して「流暢さ」を重視し、発話を継続する姿勢を育成することを意識した。その結果、英語で表現しようとする態度の定着が見られた。次年度は、キーワードのみを手がかりとして発話につなげる活動へと発展させ、即時的なアウトプット能力の向上を図りたい。</p> <p>3. 授業の中で英語に関する素朴な疑問を取り上げ、それに答えることを適宜取り入れるメタ認知的な指導も行なった。</p>
研究	<p>1. アプリを使用した音読活動を中心とした指導の効果についてTOEIC Bridge miniテストや定期試験の結果との関連を検討することで、指導方法の有効性について一定の知見を得ることができた。それについて、また、「本校における英語音読アプリ「RepeaTalk」の試験運用」(共著)として、『東京都立産業技術高等専門学校研究紀要第20号』(共著)で発表した。今後は、実践事例の蓄積および効果の検証をさらに進める。</p> <p>② 5月にこれまでの資料に基づいて口頭発表した。今後は分析を深め、研究成果として論文化していくことが課題である。これについては別紙資料の1. <「平和のための英語教育」に関する実践研究—『新英語教育』掲載実践と反戦教材の比較分析—>を参照。</p> <p>③ 英語落語の教育的活用について論考を執筆した(「英語落語の教育的意義と課題—中・高英語教科書との関連を中心に—」『和洋女子大学 教職教育支援センター年報 第14号』)。今後は実践事例の分析を深め、研究成果としてまとめていくことが課題。これについては別紙資料の<2. 英語落語における翻訳の工夫>を参照。</p> <p>④ ライティング指導における機械翻訳の有効利用に関する共同研究を行ない、『東京都立産業技術高等専門学校研究紀要第20号』(共著)に「作文比較メソッドの効果に関する定量的研究」として発表した。</p>
社会貢献	<p>① OPCにおいて、英語落語を題材とした活動を通して、日本文化を英語で発信する機会を提供することができた。参加者が英語で表現することへの関心を高める契機となった。開催時期が公立中学の中間試験前後となり、中学生の参加者がいなかったことが課題。</p> <p>② 高等学校用検定教科書の執筆において、生徒の知的好奇心を喚起し、国際的視野を育むことを意識した内容となるよう検討を重ねて執筆した。全国の高校における英語教育に資する教材づくりの一端を担うことができた。</p> <p>③ 英語落語の実践に注力し、令和7年度は計12回の高座を勤めた。英語による表現活動の可能性や、日本文化を英語で発信する教育実践について発信することができた。</p>